

『静』と『動』

先週の水曜日の朝、各学級の様子を覗いてみると、黙々と読書をする人、チェックシートに記入している人、係りの仕事をしている人、様々でしたが、どの学級も”しーんとしたシーン”。一文字で表現すると『静』。体育大会前は応援や長縄跳びの練習などで『動』の状況だったので、切り替えが出来ているか心配でしたが、一安心しました。先週から市中体連に向けて追い込みの時期に入っています。同時に高温多湿の梅雨本番になりました。これから体力的にも精神的にもきつくなるのは確実です。こういうときだからこそ、しっかり授業に打ち込む、読書に勤しむ、家庭学習を頑張る、といったことが大切です。要は切り替えです。力強い『動』を支えるのは、落ち着いた『静』なのです。ただ、『静』は『静』でも“居眠り”はいけません。授業中、ZZZ…の人もちらほら。誰のための勉強か、何のための勉強か、しっかり意識して学習に取り組んで欲しいものです。いずれにしても、落ち着いた『静』と力強い『動』のメリハリをしっかりつけることで、文武両道を目指してほしいと思います。頑張れ加中生！！



五月雨

さっそくですが、何と読むかわかりますか。答えは“さみだれ”。この時季にまつわる漢字です。それともう一つはやはり“梅雨”。ということで、これらの言葉について早速調べて見ました。

漢字表記「梅雨」の語源としては、この時季は梅の実が熟す頃であることからという説や、この時季は湿度が高くカビが生えやすいことから「黴雨（ばいう）」と呼ばれ、これが同じ音の「梅雨」に転じたという説、この時季は「毎」日のように雨が降るから「梅」という字が当てられたという説がある。普段の倍、雨が降るから「倍雨」というのはこじつけである。このほかに「梅霖（ばいりん）」、旧暦で5月頃であることに由来する「五月雨」、麦の実る頃であることに由来する「麦雨（ばくう）」などの別名がある。なお、「五月雨」の語が転じて、梅雨時の雨のように、物事が長くだらだらと続くことを「五月雨式」と言うようになった。

ちなみに、この時季の花と言えば、そうアジサイですね。漢字で書くと紫陽花。梅雨時、よくアジサイを目にしますよね。このアジサイの特徴は“土壌の状態によってわりと簡単に花の色が変わる”ということ。このため、色とりどりの花が咲くようです。うっとおしい梅雨ですが、アジサイでも眺めて心を癒しながら、学習に励んでほしいと思います。（アジサイの花言葉の一つは“うつり気”。決して、「スマホやゲームに“うつり気”して、勉強に集中できない！」ということがないように。）